つづく汚泥・食品残渣等の投棄



東鳴川町 502 には、特に冬季、汚泥や食品残渣等の投棄が続いていた。オレンジ色のものはニンジンの切れ端と思われる。積まれた汚泥から白っぽい水が染み出し赤田川に流れ込んでいる。

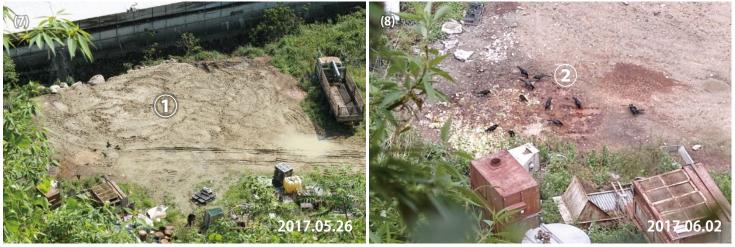


このころ村田養豚場では、橋のすぐ脇にある排水管の下の赤田川河床にかごを置き、排水管から流れ落ちる食品残渣等を回収していたが、回収した食品残渣等についても、東鳴川町 502 に投棄していた。上左写真では、バックホウでカゴを釣り上げ、中身をミニローダーのバケットに移している。



東鳴川町 502 には、運搬トラックのおがくずなども捨てられていた。餌となるものが投棄されているため、常にカラスがたむろしている。





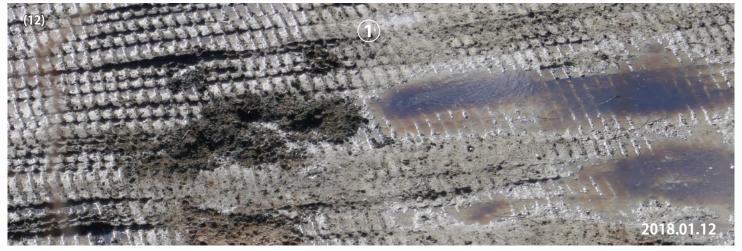
2017 年 5 月 26 日ごろの地面はきれいなままであったが(上左写真)、2017 年 6 月 2 日には、新たな食品残渣が投棄されていた(上右写真)。木津川市の赤田川水質汚濁状況調査は当初予定していた 5 月 25 日が雨天だったため、5 月 30 日に行われた。



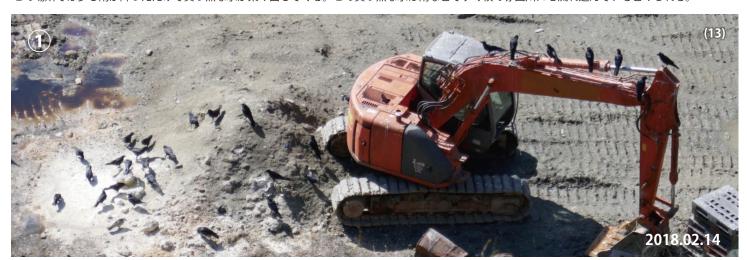
2017年9月20日には、表土を掘り返し土と混ぜる作業が行われた。東鳴川町502は地表から数十センチに渡り、真っ黒な土となっていることがわかる。



2017 年 12 月初旬、2018 年 1 月初旬、2018 年 2 月初旬、2018 年 3 月初旬と、月一度キャタピラで地面を踏み固める作業を行なっていた。小屋の東側、②の位置にも新たに黒い汚泥が捨てられるようになった。その後この場所には雑草が生えなくなった。



この場所では少し雨が降っただけで真っ黒な水が染み出してくる。この真っ黒な水は雨などですぐ横の赤田川にも流れ込んでいるとみられる。



その後も白い汚泥のようなものがたびたび投棄されていた。



2018年4月初め頃、汚泥が捨てられていたあたりが平らに整地され、畑の畝のようなものが作られた。



畑の畝のようにはなっているものの、石やゴミが多い。



右上に何かが植えられているが畑作の実態はない。雑草に覆われている。 汚泥が捨てられた場所には雑草が生えていない。



2018 年 12 月から 2019 年 4 月ごろにかけても、汚泥や食品残渣の投棄が行われた。投棄されたものには野菜クズなど餌となるものが多く含まれ、カラスや徘徊犬が地面に落ちているものを食べている様子が見られた。



2019年3月ごろには、奥に汚泥を押し拡げるなどしていた。小屋の東側(②)にも汚泥が積み上がっていた。



2019年4月中頃、畑の畝のようにしていた場所に何かが植えられた。タネから育てたのではなく、苗が植えられた。



2019 年 6 月 17 日、溝を掘って水たまりの黒い水を赤田川へ流し、汚泥等を捨てていた場所全体を平らに整地する作業が行われた。②に捨てられていた汚泥も①の広場に運び込まれ、赤田川沿いに畑の畝のようなものが作られた。



赤田川沿いの畑の畝のようなものが作られたが、4月中頃に植えた苗(右上)以外何も植えられていない。4月中頃に植えた苗も雑草に埋もれている。



苗は雑草に埋もれ水たまりには泡が浮いている。この水は雨が降ればすぐ横の赤田川へ流れ込むと思われる。ゴミが多く畑作に向いた土には見えない。



結局 4 月中頃に植えられた苗以外に何も育てられておらず、全体が雑草に埋もれており、畑作が営まれた実態はない。